

令和3年10月31日執行衆議院議員選挙 世論調査の概要

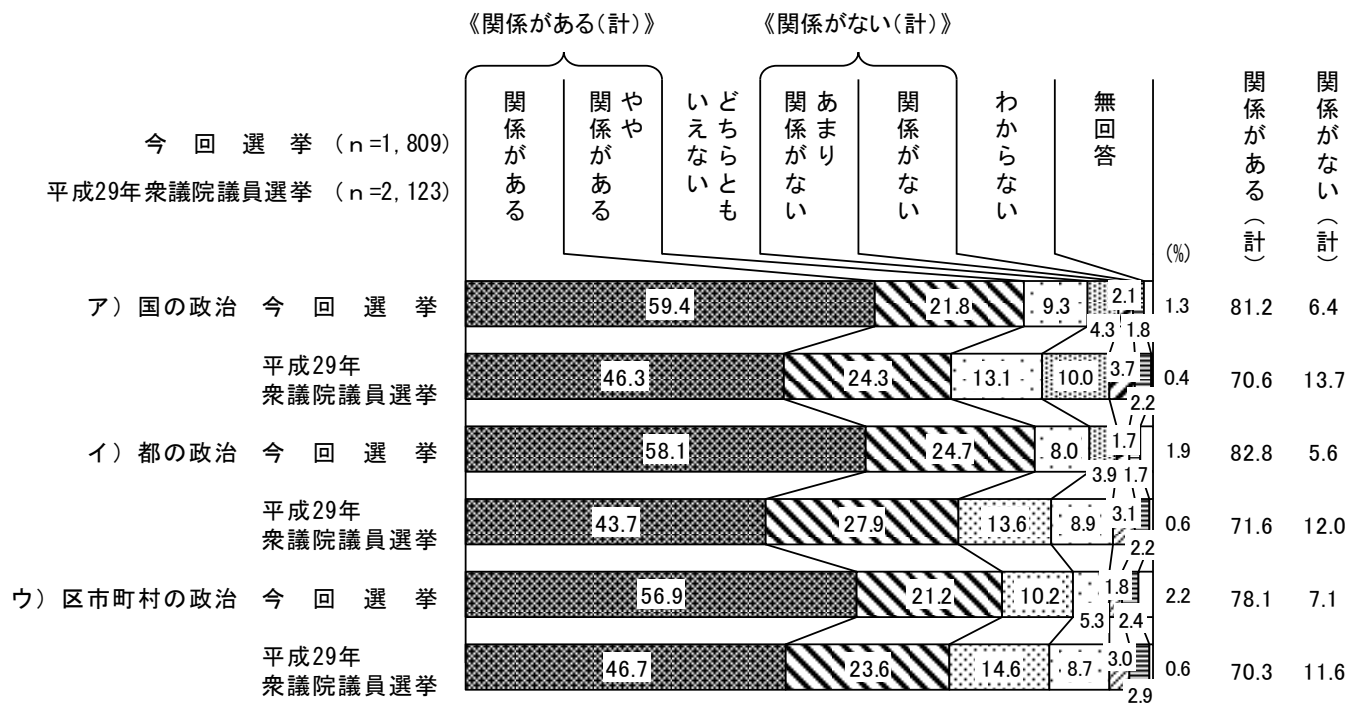
○政治と生活の関係性、「関係がある」と答えた人が増加。
○投票の動機は「国政をよくするためには、投票することが大切」が大きく伸びる。

実施の対象と概要

- ・令和3年10月31日執行衆議院議員選挙
- ・回答者数：1,809人（対象4,000人） ・調査票配送法（令和4年3月2日～3月21日）

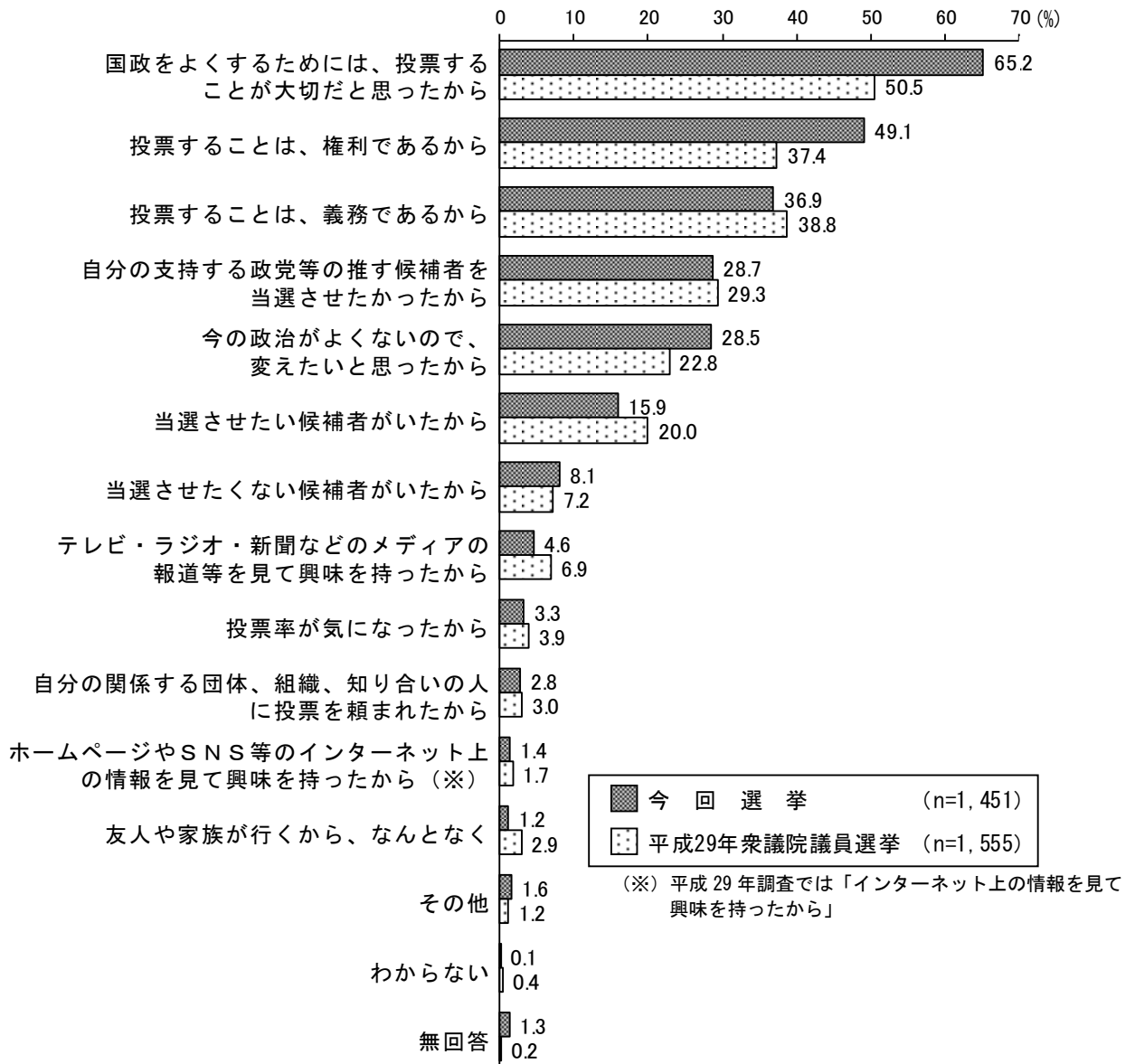
1 選挙に対する意識の変化 ～政治と生活は関係があると答えた人が増加～（P19～）

・「政治と生活の関係性について、《関係がある（計）》は国の政治と都の政治がともに8割強となっている。また、平成29年衆議院議員選挙と比較して《関係がある（計）》は、国の政治で10.6ポイント、都の政治で11.2ポイント、区市町村の政治で7.8ポイント、それぞれ増加した。



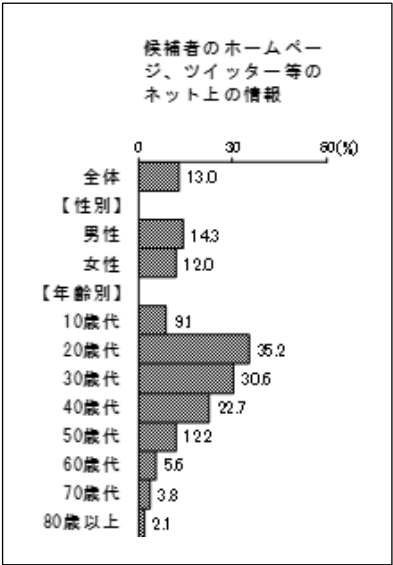
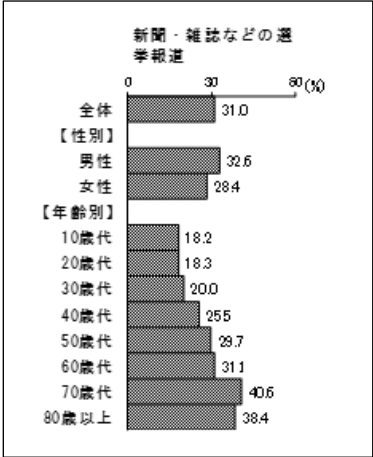
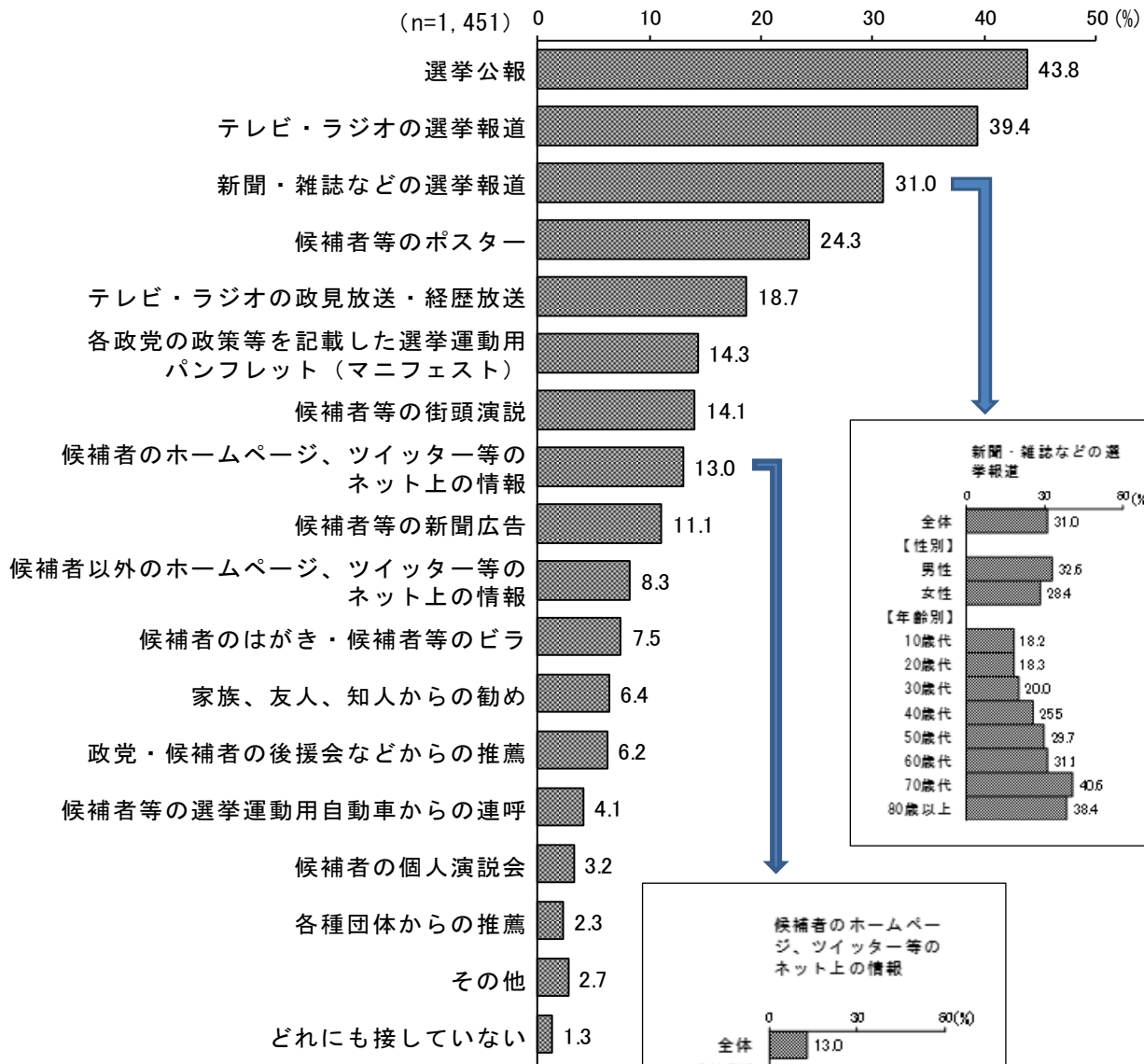
2 投票した動機、「国政をよくするためには、投票することが大切」が14.7ポイント伸びる。 (P39～)

- ・「国政をよくするためには、投票することが大切だと思ったから」が6割台半ばと最も高く、平成29年衆議院議員選挙と比較して14.7ポイント増加している。また、「投票することは、権利であるから」が11.7ポイント増加した。一方、3番目に高い「投票することは義務であるから」が1.9ポイントの微減となった。



3 候補者の選定の役に立った媒体は、選挙公報やテレビ・ラジオの選挙報道。(P104～)

- ・ 候補者の選定の役に立った媒体は、「選挙公報」が43.8%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオの選挙報道」が39.4%だった。また、多くの候補者が選挙運動にインターネットを活用したが、本調査で「役に立った」と回答した人は1割強にとどまった。
- ・ なお、新聞・雑誌などの選挙報道が役に立ったという回答は年齢層が高いほど増加し、一方、ネット上の情報が役に立ったという回答は年齢層が低いほど増加した。



問い合わせ先
 選挙管理委員会事務局 選挙課 新井、花澤
 電話 03 - 5320 - 6903 (直通) / 55-111・137 (内線)